



6～9月の管理ポイント



今年の気温は平年よりも高くなると予想されています。
芝生にも多くのストレスが掛かる時期となりますので、万全の夏越し対策をしていきましょう。



根の生育しやすい
土壌環境を整えましょう

レボ

近年は梅雨明け後も台風やゲリラ豪雨などの短時間での大量降雨が増えています。レボは排水性が高く表層土壌の水分値を低めに保つため、過湿状態になりがちな降雨後にも気相をしっかりと保ちます。定期散布を行い根の生育しやすい土壌環境を整えましょう。

スポット処理や張芝した箇所には手播きしやすい粒剤タイプのハイドレーターGがおすすめです。
使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml～500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回～2回



高親水性土壌用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や表層の撥水性土壌に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少水量散布でも高い効果が得られます。真夏にも安心して使用できる安全性の高い製品です。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でもご使用いただけます。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上

ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上



サッチの除去
土壌環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。土壌の透水性を改善しましょう。

土壌微生物が活発な時期になるので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。

使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.5ℓ/m²



強光ストレス予防

インターセプト

梅雨が明けると急激に日差しが強くなります。ベントグラスにとって強すぎる太陽光は強光ストレスを引き起こす原因となります（過剰に取り入れた光により活性酸素が発生し細胞が傷つけられる）。インターセプト処理で、強すぎる光（ベントグラスが吸収する波長の可視光、紫外線）をカットし、強光ストレスを軽減しましょう。

使用量：1000-2500倍 散布水量：100-500ml/m² 散布間隔：7-10日



高温ストレスから
ベントを守る

ヒートファイター

ヒートファイターは、夏の厳しい暑さをベントグラスが生き延びる為のお勧め資材です。有効成分「ゼルンボン」が細胞を刺激することで植物自体が持つ高温耐性が活性化、通常では弱体化・致死してしまう程の高温でも生き延びられるようになります。梅雨明け前からの予防処理で、芝生の高温耐性を引き出しましょう。

使用量：0.5ml/m² 散布水量：100-500ml/m² 散布間隔：14日



土壌中の有害物質除去

光合成細菌

過湿状態の土壌中に発生しやすい硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP（高エネルギーリン酸化合物：補酵素）などを分泌し、有用な土壌微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1～2ml 1ℓ/m²散布 月1～2回

芝生管理のマメ知識 第195号

<夏> 地球温暖化と近年の異常気象

昨今の記録的猛暑や大雨など、過去に例を見ない気象が多くなっております。今回はIPCC(気候変動に関する政府間パネル)によるレポートを整理し、芝生管理に関連する情報をお届けいたします。

IPCCとは？



AR6 (2023)

世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)により設立された組織で、195の国と地域が参加(2021年8月現在)。気候変動の科学的な基礎を各国の政府へ与えることが目的です。世界中の科学者が協力し、およそ5-8年ごとに気候変動の科学的知見を記した報告書(評価報告書: AR)が作成されます。2026年現在の最新の報告書はAR6(2023年3月)です。

どんな内容が書かれている？

- ・温室効果ガスなどの、人間が気候に及ぼした影響(気温、海面、降水パターン、氷河衰退など)
- ・将来起こりうる気候の予測(異常気象や極端な温度変化など)
- ・人間がこの先何をする、気候変動にどれだけ影響するか(温室効果ガスを排出し続けると...?)
- ・人間ではなく、自然に起こる要因による気候変動への影響(自然変動は短期的に、地域的に大きく影響する)

出典: <https://www.env.go.jp/earth/ipcc/6th/index.html>

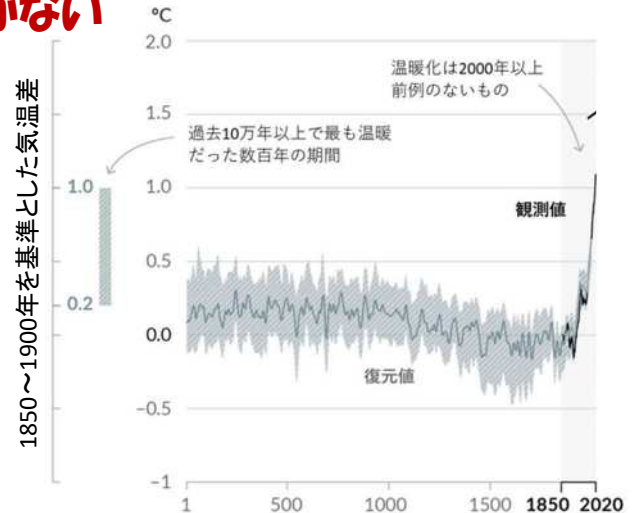
人間の影響が温暖化させてきたことに疑う余地がない

報告書	公表年	人間活動が温暖化を生じさせる...
第1次報告書	1990	...恐れあり
第3次報告書	2001	...可能性が高い(66%以上)
第6次報告書	2021	...ことに疑う余地がない

出典: 第1作業部会報告書の解説資料(環境省) p.9

- ・人間活動により温室効果ガス(GHG)は増えている(p.10)
 - ・増えたGHGが気温の上昇に寄与している(p.12)
- 上記より近年の気温上昇は、「人為的要因なしには考えられない」ことから、人間の影響が温暖化させたことに疑う余地がない、というのが最新の見解です。

近年の温暖化は過去数千年間前例がない



出典: 第1作業部会報告書の解説資料(環境省) p.19

- ・6500年前ごろは数百年にわたり最も温暖であったが、2011~2020年の気温はそれよりもさらに高かった。
- 過去に類を見ない速度で地球は暑くなっています。

世界の水循環がさらに強まる

水循環の概略図



出典: 第1作業部会報告書の解説資料(環境省) p.49

気温が上昇すると、水の移動が起こりやすくなり、極端な気候現象(大雨や干ばつ)が起きやすくなります。

地球温暖化

大気中の水分が増える

降水量の増加



大雨や洪水の深刻化

気温が1°C上昇すると、大気が保持できる水蒸気量は約7%増加

地上の水分は蒸発しやすくなる



干ばつや乾燥害の深刻化

地球温暖化は、単純に気温上昇だけでなく、海面上昇、氷河の融解、降水量の変化など、様々な影響があります。近年の記録的な猛暑や大雨に備え、これまで以上に水管理や夏越し対策に努めなければならないでしょう。